

# 第51回インナーゼミナール大会

## 研究計画書

ゼミ名	林(健太)ゼミ	チーム名	アワジネグロ共和国
タイトル	淡路島の観光業の今後		
テーマ群	e) 産業・企業		
メンバー	河野 智也 湯本 瑛太郎 杉本 将 難波 翔貴 大西 康世 川崎 龍		
研究計画内容	<p>(背景)</p> <p>昨年から広がった新型コロナウイルスの影響は今年になっても様々な産業に及んでおり、その中でも国内外からの消費者の移動や飲食などを伴う観光業は特に苦戦を強いられている産業の一つであるといえる。しかしその一方で、コロナ禍を契機に国内の有名な観光地や海外ではなく比較的近距離の観光地に目を向ける「マイクロツーリズム」のような動きが生まれ、各地で新たな観光需要が喚起されている面もある。例として本チームのメンバーが大学入学前まで生活していた地域でもある兵庫県淡路島は、昨年夏に関西圏の観光客からの人気が高まったといわれている。他にも淡路島は、リモートワークを活用して本社機能を移転させる企業が現れたことや、休暇を取りながら仕事をする観光の形態「ワーケーション」での利用に向けた取り組みなどでも注目を集めており、「マイクロツーリズム」と共に必ずしも長距離の移動を前提としていない観光の形が急速に広まりつつあるという見方もできる。本研究では、このような淡路島の観光業の現状に着目することで、コロナ禍やアフターコロナにおける観光業の在り方について考察していく。</p> <p>(内容)</p> <p>淡路島の現状の解析のため、(1)はじめに淡路島の観光業の現状を統計データなどを用いてコロナ前後や他の有力な観光地と比較する。(2)続いて、コロナ渦で台頭してきた「マイクロツーリズム」や「ワーケーション」などの観光形態を調べ、それらの長所・短所、実際に取り組んでいる企業について研究する。(3)それらを踏まえ、淡路島の観光業の今後について考察する。</p> <p>(期待される効果)</p> <p>淡路島の現状・将来への解析を通じ、日本の(特に観光業が主な産業である地域の)観光業のコロナ渦中・アフターコロナでの状況を理解・考察し、観光業のありかたを考察することができる。</p>		